

## 第8回アカデミックフォーラム 「物価、賃金と労働者生活」

### (趣旨)

昨今、物価と賃金の問題についてさまざまな議論が行われている。とりわけ円安に伴い物価が上昇する中、賃金がそれに追いつかず、実質賃金の長期的な停滞が日本経済、日本社会に様々な問題を惹起している。

まず、停滞的な賃金そのものに関しては以下のような課題が提示されるであろう。

- ・なぜ日本の賃金の伸びは停滞しているのか？
  - ・他の国の状況と比べて何が日本の賃金の問題なのか？
  - ・雇用形態の変化が賃金の停滞に関連しているのだろうか？
  - ・日本の賃金制度はどのように変わるべきなのだろうか？
  - ・労働分配率の低下を食い止めるため労働組合はどのように対応すべきだろうか？
- 等々

賃金の問題は、とりもなおさず労働者生活に直結する課題でもある。賃金が停滞すれば生活水準の低下は必然の結果となる。生活水準の低下は消費者行動に影響をもたらし、極端な場合、エンゲル係数の上昇となるかもしれない。明らかに経済レベルの低下と見ても不思議ではない。

政策的にこの問題を放置することはできず、事実、この2月の衆議院選挙の大きな争点の1つが労働者生活の向上のために税・社会保険・財政政策などでどのように対応すべきかということとなっている。

本年度のアカデミックフォーラムでは、時宜を得たこれらの問題を幅広く学際的に論じていきたい。

日本経済学会連合理事長 白木 三秀  
(早稲田大学名誉教授)